

4 ラベルナウで利用するデータの説明とデータ作成の流れ

4-1 データ作成の流れ

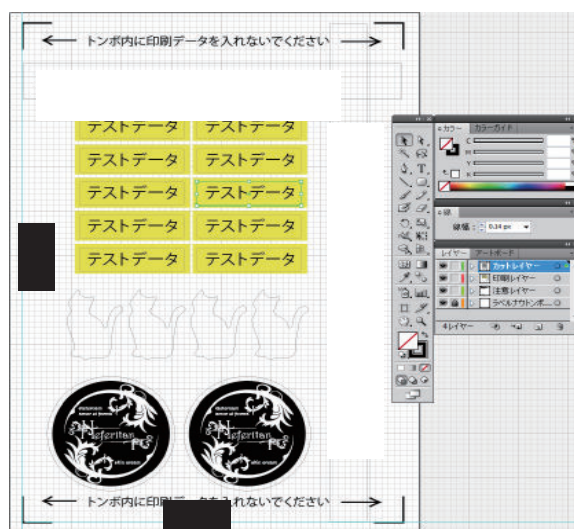
4-2 ラベルナウで利用するデータの説明

4-1 データ作成の流れ

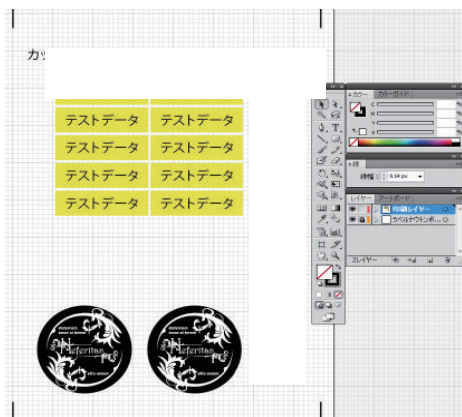
イラストレータデータ作成フローチャート

弊社テンプレートデータ (AI ファイル)

↓
原本ファイル (AI ファイル)

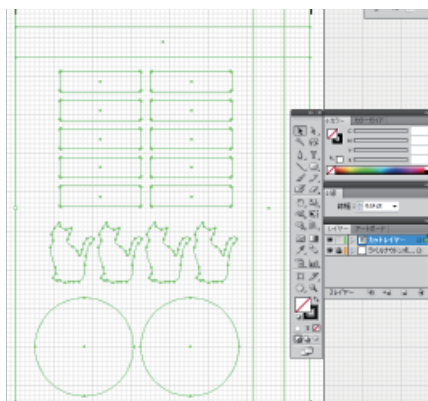


印刷 EPS



↓
イラストレータからプリンタへ出力

カット EPS



↓
ラベルナウから CUT (HPGL) ファイルに変換し
カッティングプロッタへ出力

4-2 ラベルナウで利用するデータの説明

弊社テンプレートファイル（各種A1ファイル）

弊社にてイラストレータにて作成したテンプレートファイルです。

下からトンボレイヤー、ご案内レイヤー、印刷レイヤー、カットレイヤーとなっております。

トンボレイヤーについて

ラベルナウでは左下トンボの角を 0.0 点基準とし、カットデータを作成します。

故に左下トンボの角が 0.0 点になっていない場合、その分カットする位置がずれます。

また、プロッタのキョリホセイを 5mm 補正に設定しておりますので、もしトンボ間を変更するのであれば、5mm 刻みで変更してください。

注意

プロッタのキョリホセイについて

どんな印刷方法でも実サイズで印刷されるとは限りません。熱伸縮等でメディアが縮んだりしますし

またプロッタのトンボ読取誤差もございます。(FC4500 のトンボ読取精度はとても高いですが)

その誤差を吸収し、一定のサイズでラベルを作成できるようにするため、5mm 補正をかけております。

(例えばイラストレータデータのトンボ間が 310 で出力、印刷時の熱伸縮等で実物が 309.4 になったり 309.7 になったりすることがあります。5mm 補正が掛かっていれば、すべて 310 とみなし同一サイズでカットすることができます。)

ご案内レイヤーについて

データを作るにあたっての注意が記載されております。

読み終わった後はレイヤーごと捨ててしまってください。

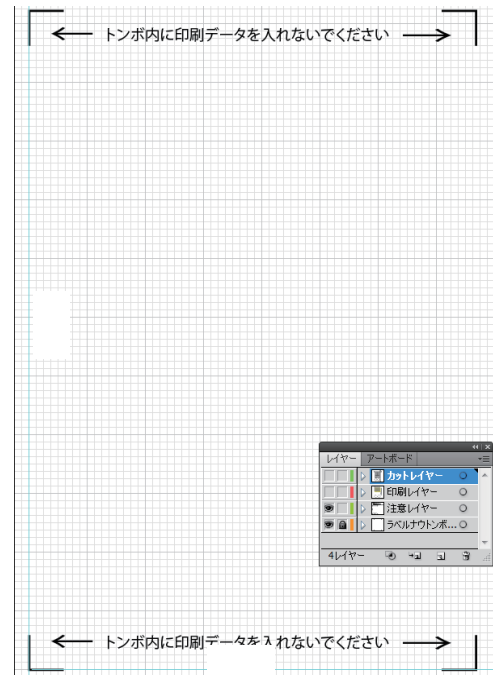
印刷レイヤーについて

印刷するデータを作成したり、張り付けたりしてください。

カットレイヤーについて

カットするラインを作成してください。

線幅 0.14pt の塗りなし K=100% のデータをカット
ラインとみなします。

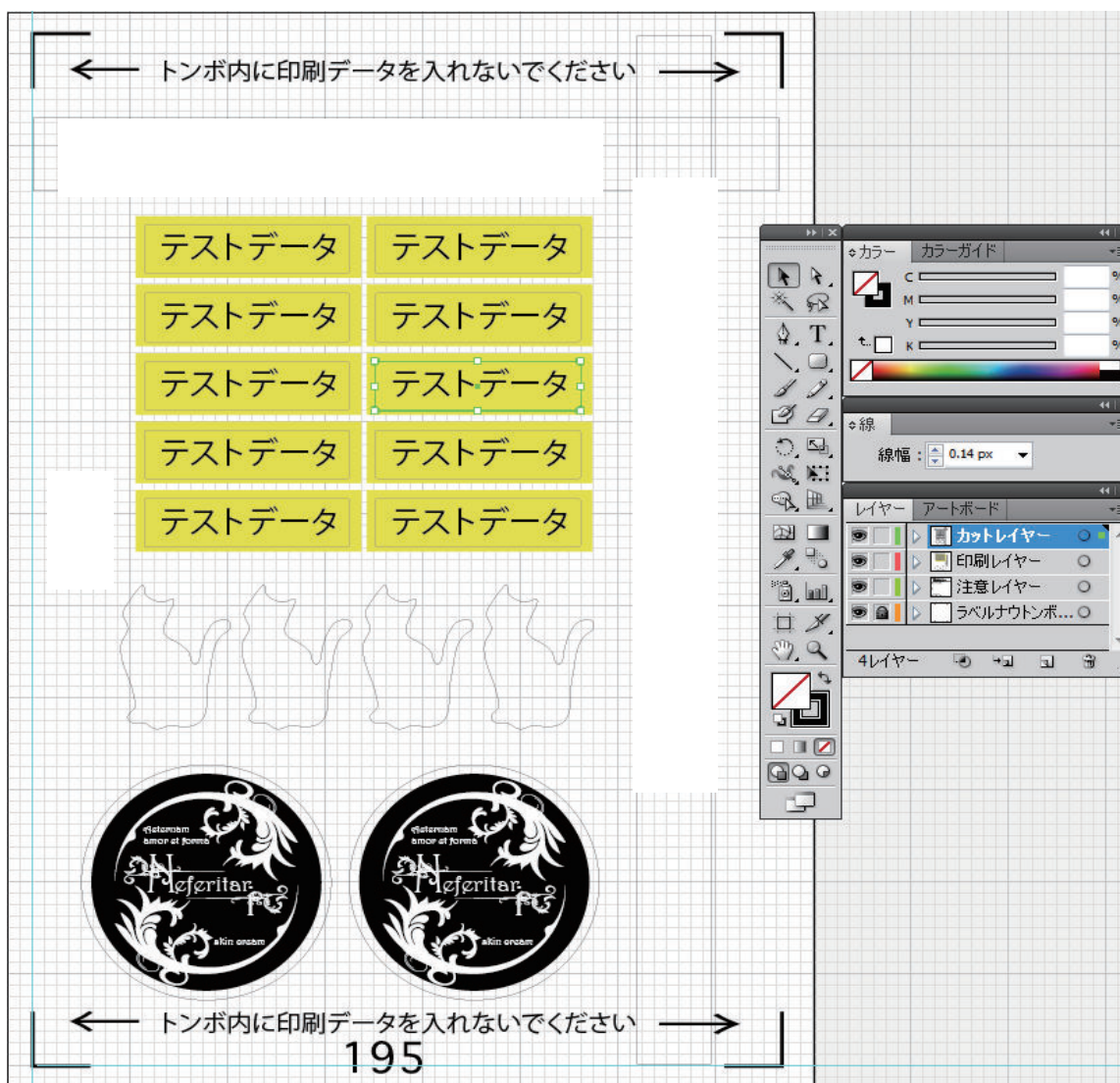


4-2ラベルナウで利用するデータの説明

原本ファイル (A1ファイル)

テンプレートファイルに印刷データやカットデータの情報を加えたものです。

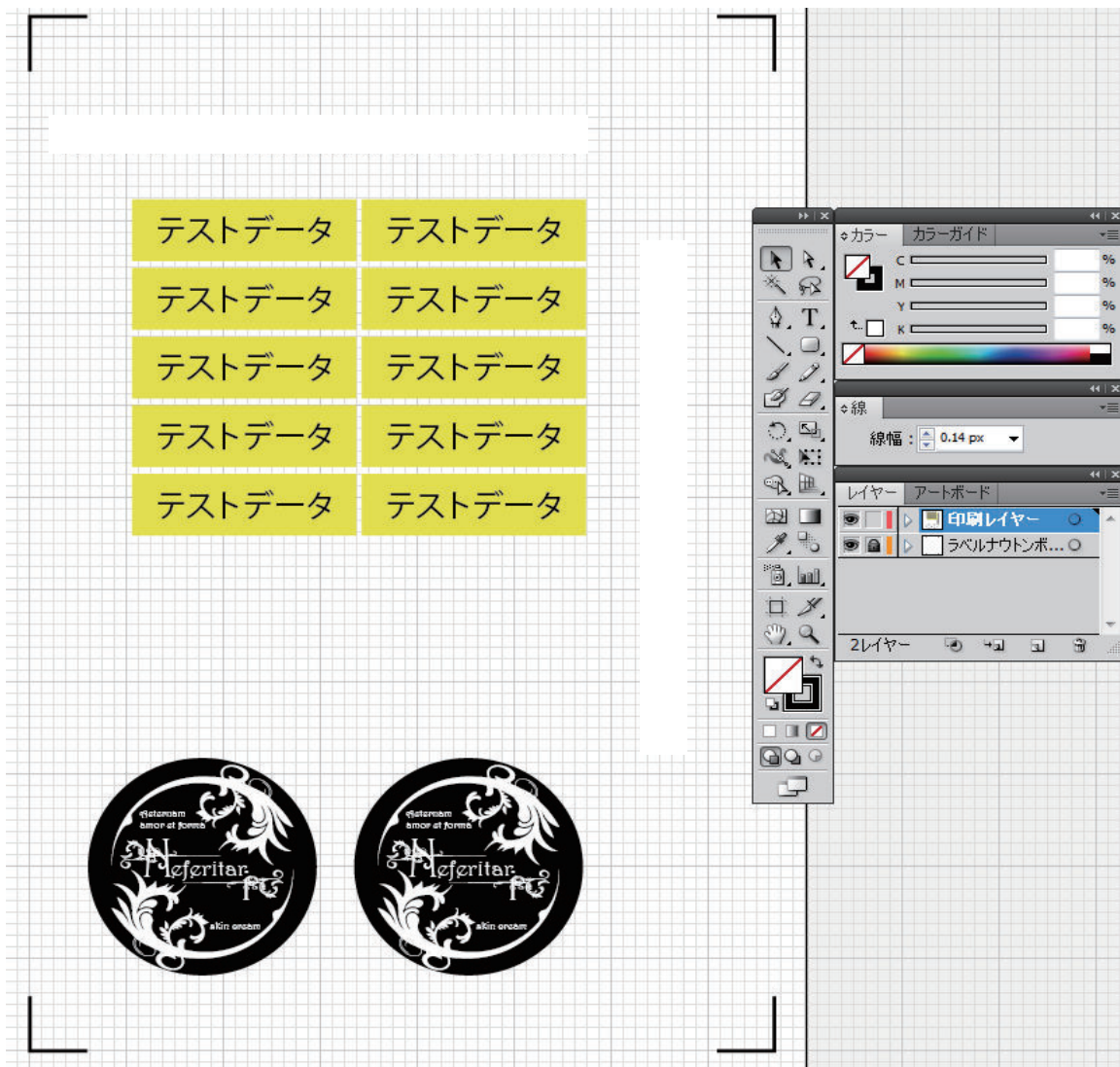
このデータが原本ファイル (マスターデータ) となり、このファイルから印刷 EPS とカット EPS を作成します。



4-2ラベルナウで利用するデータの説明

印刷 EPS ファイル (EPS ファイル)

原本ファイルから注意レイヤー、カットレイヤーを除きイラストレータにて EPS 保存したファイルです。EPS 保存する際にはイラストレータの AI ファイル ver と合わせた EPSver にて保存してください。作成した EPS ファイルはイラストレータもしくはラベルナウよりプリント出力してください。*1



*1 イラストレータからの印字出力に問題がない限り、イラストレータから印刷出力を行ってください。

4-2ラベルナウで利用するデータの説明

カット EPS ファイル (EPS ファイル)

原本ファイルから注意レイヤー、印刷レイヤーを除きイラストレータにて EPS 保存したファイルです。EPS 保存する際にはイラストレータの AI ファイル ver と合わせた EPSver にて保存してください。作成した EPS ファイルをラベルナウにてカットファイル変換しプロッタへ出力してください。

